

書籍『図説 %Z法と対称座標法の入門』初版 **第2刷**の正誤表 (1/2)

題記の書籍をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。その書籍の中で、下表に示す箇所に誤記がありましたので、お詫びして訂正します。なお、下表の「訂正箇所」の欄に**赤色**で示した事項が今回追加した訂正分であり、その他は前回までの訂正分です。

著者 ; 柴 崎 誠

訂正箇所	誤っている表記	正しい表記
P7の「手順4」から 下方へ7行目	・・・算出するためには、1000_____×3 [kV・A] に置き換えます。・・・	・・・算出するためには、1000 $\frac{V \cdot A}{kV \cdot A}$ ×3 [kV・A] に置き換えます。・・・
P7の下から3行目	・・・[kV]の単位で表した1000_____×66 [kV]の 数値に置き換えます。・・・	・・・[kV]の単位で表した1000 $\frac{V}{kV}$ ×66 [kV]の 数値に置き換えます。
P56の(16)式 の分母	$\%R_1[\%] = \dots = \frac{10.166 \times 10^{-2} \times 200}{10 \times \underline{044}^2} =$ 分母の044に小数点が欠落している。	$\%R_1[\%] = \dots = \frac{10.166 \times 10^{-2} \times 200}{10 \times \underline{0.44}^2} =$ 分母の0.44に小数点を書き加える。
P59の例題1の 設問文の3行目	変圧器Aの%漏れ X_T 値は、・・・	変圧器Aの%漏れ Z_T 値は、・・・
P106の下から4行目	・・・発電設備が全出力の <u>450</u> [kW]のとき、・・・	・・・発電設備が全出力の <u>900</u> [kW]のとき、・・・
P152の6行目	・・・電源電圧値の E_{SA} , E_{SA} , E_{SA} を・・・	・・・電源電圧値の E_{SA} , E_{SB} , E_{SC} を・・・
P154の7行目	先の講義 <u>03</u> で・・・	先の講義 <u>02</u> の第2項で・・・
P161の(11・17)式	$\dot{V}_1 = \dot{E}_{SA} - \dot{Z}_1 \cdot \dot{I}_1 = \left(1 - \frac{-\dot{Z}_1}{\dot{Z}_0 + \dot{Z}_1 + \dot{Z}_2} \right) \dot{E}_{SA}$	$\dot{V}_1 = \dot{E}_{SA} - \dot{Z}_1 \cdot \dot{I}_1 = \left(1 - \frac{\dot{Z}_1}{\dot{Z}_0 + \dot{Z}_1 + \dot{Z}_2} \right) \dot{E}_{SA}$
P166の最下行	<u>前ページの図12・1</u> に表した・・・	<u>上の図12・2</u> に表した・・・
P167の3行目	・・・この <u>図12・1</u> の等価回路図を	・・・この <u>図12・2</u> の等価回路図を

次頁に続く

書籍『図説 %Z法と対称座標法の入門』初版 第2刷の正誤表 (2/2)

訂正箇所	誤っている表記	正しい表記
P167の4行目	・・・この 図 12・1 は少々不便です。	・・・この 図 12・2 は少々不便です。
P167の下から4行目	・・・中性点高抵抗接地系では、 図 12・2 の	・・・中性点高抵抗接地系では、 図 12・3 の
P172の図 15・1 の中の変圧器の%Z値	%Z _T = 4.3 %	%Z _T = 4.08 % (説明) P176 の 5 行目に記した 4.08[%]と合わせる。
P179の(15・30)式	≒ 1.078 4 [pu] ∠0 [°]	= 1.078 4[pu]∠ - 3.55 [°] (E _{SA} とほぼ同位相)
P192の例題6の「解法と解説」の中の(1)式から2行上から	(説明；次の二重線を施した3か所の「3」が余分であるため、3か所とも「3」を削除して修正する。 ・・・・・・・・ 題意の未補償分の 11 869[kV・A/相]の値から 3 %Z _C [%] の値、及び、零相分%Z ₀ [%]の値を、3%R _N [%]と 3 %Z _C [%] の並列合成値で求めます。 $\del{3}\%Z_C[\%] = -j \frac{10\,000\text{ [kV}\cdot\text{A]}}{3[\text{相}] \times 11\,869\text{ [kV}\cdot\text{A/相]}} \times 100[\%] = -j\,28.08[\%] \quad (1)$	
P234の図2の中	図2の E _A と E _{SA} が逆に記載してある。	図2の E _A と E _{SA} を入れ替えて修正する。
P253の(26・1)式	$+j5 \times (X_{G2} + X_T) \doteq \frac{1}{-j5 \times 2 \omega C_1} \quad (26-1)$	$ 5 \times (X_{G2} + X_T) \doteq \left \frac{1}{5 \times 2 \omega C_1} \right \quad (26-1)$
P264の1行目	・・・零相分電流 \dot{I}_0 、及び $3\dot{I}_0$ [A/相]が・・・	・・・零相分電流 \dot{I}_0 [A/相]、及び $3\dot{I}_0$ [A]が・・・
P269の図 29-4 の左下	(誤記の説明) C相電圧の記号が <u>E_{ac}</u> になっている。	(訂正の説明) C相電圧の記号を <u>E_{sc}</u> に訂正する。
P270の6項の(1)項	(1) <u>微</u> 地絡 ___ を生じた・・・	(1) <u>50%</u> 地絡故障を生じた・・・
P282の図 30・10 の中のアーク表示	(誤記内容の説明) 図 30・10 の中の上相の A 相、中相の B 相、下相の C 相の <u>3相分の全ての碍子表面にて閃絡状態を表すアークを描いてある。</u>	(修正方法の説明) 図 30・10 の中の <u>中相と下相の碍子表面の</u> アークを消去して、上相の碍子表面のアークのみを残し、A相にて1線地絡故障を生じている状態に修正する。
P286の図 30・14 の中	点線を基準に実線が「 <u>28.1° 遅れ</u> 」と記してある。	「 <u>32.0° 遅れ</u> 」に修正する。
以下余白		

以上